

えとこだより



ここにあるすべてを、
かけがえのない「宝もん」へ。

「令和のくぐり初め」(嫁入り船が満願寺閘門を阿賀野川から小阿賀野川へくぐり抜けたところ)池田友好氏撮影・新潟市江南区横越コミュニティ協議会提供

もくじ ●

特集1 阿賀野川流域の光と影を学べる 小・中学生向け！2つの教材を紹介！	2
特集2 阿賀の宝もん★発掘レポート(第6回)	4
特集3 パネル巡回展・10年の軌跡 阿賀野川流域・近代日本の光と影を描いた これまでの11作品を振り返ります	6
インフォメーション	8

新しい地域再生のあり方を模索する機会に

デジタルコンテンツの充実を通じて「もやい直し」の土台を強化するために

昨年「阿賀野川流域の地域再生が皆様のおかげで10年を迎え、今年から次の新たな10年に向けて踏み出そう」とした矢先に、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大が発生しました。現在、日本全国のご家庭や職場、店舗や施設、イベントなどで新しい生活様式へと移行する様々な試行錯誤が続いています。

FM事業(※1)でも、年間に複数回開催していたイベントについて、今年度は万が一を考慮してすべて中止しました。一方、これまで自粛が続いていた環境学習ツアーや各種プログラムの依頼はあり、ありがたいことに少しずつ回復傾向にあり、来年度はぜひイベントも再開できるよつに今から準備を進めています。

今年度はさらに、これまでの地域再生を通じて培われたノウハウや蓄積された成果をフルに活用して、新たなデジタル教育ツールの制作やリモートパネル展の発信を予定しています。このようにデジタルコンテンツの充実に注力することで、これまでの「もやい直し」(※2)の土台を強化する新しい地域再生のあり方を模索しています。

※1「阿賀野川えとこだプロジェクト」のこと。詳細はP.8参照。

※2水俣病で壊れた地域の人と人の絆、人と自然との関係を再び紡ぎ直すこと。



▲第21回表彰式(写真提供:新潟水俣病共闘会議)



第22回 新潟水俣環境賞作文コンクール

県内小・中学校の児童・生徒の皆さんへ

の作品を募集します!

募集2020年10月1日～2021年3月31日
発表2021年6月

新潟水俣病や新潟県内の自然について思ったこと、身の回りの環境について考えたことや体験して感じたことなどを書いてください。皆さんの応募をおまちしています。

- 例えば、「新潟水俣病」「住んでいる地域の環境」「新潟の自然(森林・川・湖沼・海と環境問題)」「総合学習等で取り組んでいる環境問題」「水の安全、食の安全」について、体験したことや気づいたこと、考えたことを書いてください。
- 作文の応募はA4版400字詰め原稿用紙で、小学校1・2年生は600字～800字、小学校3・4年生は800字～1000字、小学校5・6年生は1000字～1200字、中学校1・2・3年生は1200字～1600字です。
- 優秀賞者には表彰状と図書カード1万円分を贈ります。佳作者には表彰状と図書カード3千円分を贈ります。
- 応募していただいた方全員に参加賞を贈呈します。



お問合せ先 ●新潟水俣病被害者の会 TEL025-281-2466 / FAX025-281-8101
(作文の送付先 ●〒950-0965 新潟市中央区新光町 6-2 勤労福祉会館 3 階 新潟水俣病被害者の会)



第21回

受賞作品 発表



第21回 作文コンクールの授賞式が開催されました!
(優秀賞は右記1名の方)

優秀賞受賞者と作品テーマ

◆小学校5・6年生の部



「私達の未来は」
長谷川美波さん(新発田市立外ヶ輪小学校5年)

作文の全文は、「阿賀野川えとこだ!流域通信」に掲載してありますので、ぜひご覧ください!

このコンクールは、新潟水俣病被害者の「こんな苦しみは自分たちだけでたくさんだ。子や孫に同じ苦しみを味わわせてはならない」という切なる思いから、次代を担う子どもたちに身の回りの環境に関心をもってもらおうと、新潟県内の小・中学生を対象に毎年開催されています。

主催:新潟水俣病被害者の会、新潟水俣病阿賀野患者会 後援:新潟県・新潟県教育委員会、新潟市・新潟市教育委員会、阿賀野市・阿賀野市教育委員会、五泉市・五泉市教育委員会、阿賀町・阿賀町教育委員会、新潟日報社、朝日新聞新潟総局、毎日新聞新潟支局、読売新聞新潟支局、産経新聞新潟支局、日本経済新聞新潟支局、NHK新潟放送局、BSN新潟放送、NST新潟総合テレビ、TeNYテレビ新潟、UX 新潟テレビ21、エフエムラジオ新潟、ほか

～新潟水俣病トピックス～



新刊!

阿賀の岸から

柳水園ものがたり

里村 洋子 著

映画「阿賀に生きる」のアナザーストーリー。

新潟水俣病被害者の方々、その応援団の皆さんの定宿・

咲花温泉「柳水園」に集うさまざまな人々のものがたり。

カバーの内側の表紙は2つのデザインがあります(※内容は同じ)。写真出典:新潟絵屋ホームページ

既刊



丹藤商店ものがたり

里村 洋子 著

お問合せ

冥土のみやげ企画
flag@cronos.ocn.ne.jp

「阿賀野川えとこだプロジェクト」とは?

正式には「阿賀野川流域地域フィールドミュージアム事業」(略称FM事業)と言い、阿賀野川流域の各地域が今も続く新潟水俣病と向き合い、それを乗り越えるような「人と人の絆」や「人と自然の関係」をつむぎ直すため、流域の住民・行政・民間団体が手を取り合い、「新しい地域づくり」を目指して始まったプロジェクトです。

阿賀野川えとこだ! 憲章(事業理念)

私たちは新潟水俣病に学び教訓を伝承することで、負の遺産から新たな価値を創造していくことを目指します。阿賀野川流域の宝物を広く内外に発信しながら、公害により失われた人と人、人と自然、人と社会の絆をつむぎ直していきます。地域を愛する人が地域の未来をつくる「流域自治」の確立へ向けて行動します。

(阿賀野川流域地域フィールドミュージアム事業推進委員会)

編集後記

第31号はいかがでしたでしょうか?

今年は新型コロナウイルスの世界的な感染拡大を受けて、日本でも「新しい生活様式」に移行する中で、これまでのようにツアーやイベントを開催できず、新しい取組を試行錯誤しながら模索中です。今後、その成果を皆さんにお知らせしたいと考えています☆

3月発行予定の次号もご期待ください!



今号表紙の写真「令和のくぐり初め」

かつて、新潟市江南区の横越地域では、川の対岸から船で嫁入りする風習があったそうです。この「嫁入り舟」を横越コミュニティ協議会が現代に甦らせたイベント「水郷の花嫁さんは船で行く」の一コマを撮影した一枚。

阿賀野川えとこだより 第31号

発行:新潟県(※環境省補助事業) 発行日:2020年11月10日

企画編集:一般社団法人あがのかわ環境学舎(〒959-2221阿賀野市保田3866-1)

TEL.&FAX. 0250-68-5424
aganogawa@niigata.email.ne.jp

阿賀野川えとこだ!流域通信

<https://aganogawa.info/>

